

# 玉城氏「反対の民意」重視

**辺野古承認の指不応じず**

## 苦悩1カ月、異例決断

沖縄県の玉城デニー知事

が、米軍普天間飛行場移設工事に関する政府の設計変更承認の指示に事業上応じ

ない決断をしたのは「移設反対の民意」を重視したた

めだ。ただ、1カ月前の最

高裁判決で負った承認義務のトップとして極めて異例」（県幹部）で、決断に

は深い苦悩があった。

【1面に本記】

「本日まで協議を重ねて

きた結果だ」。玉城氏は4

日午後、県庁で記者団に疲

れ果てた表情で語った。

関係者によると、最高裁

背いた場合、県内外から「法律軽視」との批判が出る可

能性があった。

さうこそ、政府から数百億円規模の損害賠償を請求されるとの懸念もあり、県職員出身の副知事らは承認を

米軍普天間飛行場の沖縄県名護市辺野古への移設を巡り、設計変更に関する政府の承認指示に「期限までの承認は困難」と回答したと記者団に話す玉城デニー知事=4日午後、県庁



る米軍キャンプ・シュワブのゲート前では、反対派市民が連日のように知事に承認しないよう声を上げた。

結局、知事が「期限までの承認は困難」との結論を出したのは、期限の4日。「承認」「不承認」のいずれも明言せず、行政機関トップの立場と、反対派を代表する立場の両立を図った形だ。

ただ、政府は今回の知事の決断が、移設工事に与える影響は限定的とみる。代執行により工事を進められるとみており、政府関係者は「爾々と干事を進めるだけ」と冷やかに語った。

進言。知事も一時は承認に傾いた。

ただ知事の「搖らぎ」を察知した県政与党の県議は2日、知事公舎を訪れて承認しないよう知事に直談判。埋め立て現場に隣接す